

2019年12月20日 同行訪問感想文

先日はお忙しいところ、貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございました。丁寧に御指導いただき、心より感謝いたします。

訪問看護を始めてまだ半年であり小児科の経験が全くない私にとって、医療的ケアの必要な子供の訪問看護は想像もつかず漠然とした不安があり、苦手だと感じていました。そして、できれば避けたいとも思っていました。従って今回の研修で私は成人と小児では何が違うのか、なぜ小児が対象となると不安を抱き苦手だと感じてしまうのか、を考えながら研修に臨みました。

成人と違い、小児の訪問看護で特徴的であると感じたことが3つありました。1つ目は、子供の成長によってケア方法を検討する必要があることです。研修では、子供の身体の成長に合わせて入浴の物品、移動方法、ケアに必要な人数を変化させ、変化する際は半年前から家族への説明等準備を始めていることを学ぶことができました。2つ目は、家族特に母親との関係がとても密接であることです。訪問時の患児の状態報告や治療等の意思決定は保護者が主になり、その上訪問看護では利用者の家庭でケアを行うため母親との関係が非常に重要であると感じました。3つ目は他職種へ情報提供し連携することが多いということです。今回研修の担当の方も保健師、行政の各担当者、相談支援専門員、介護職員、看護師、医師等様々な人達と情報共有をしていました。以上3点の気づきを得て私の率直な感想は「やることが多い、大変だ」でした。しかし、研修の担当者に感想を伝えると「やっていることは成人と変わらない」と返答がありました。研修が終了し、再度考えてみると確かに利用者の状態に応じてケアを変化させたり、主介護者である家族（配偶者や娘等）との関係構築が重要であったり、ケアマネージャーや医師等と連携することの大切さを考えると共通する事も多く、小児だからと過度に身構える必要はないのかもしれないと感じました。

対象が小児である場合、なぜ不安で苦手になるのか。私に小児科の経験がなく、未知の領域である、ということが大きな理由であることは確かだと思います。私は研修に行く前、小児はサイズが小さく壊れてしまいそうで怖いという感情を抱いていました。また、障害児を抱えている家庭には悲しみや大変である等マイナスのイメージしか浮んでいませんでした。しかし、研修中担当の方に「最初は誰でも、優しくどこまで大丈夫か探りながらやっていくもの」とアドバイスしていただき確かにその通りだと思いました。そして、訪問させていただいた家庭はどの家も穏やかな雰囲気が流れ、初対面の私にも笑顔で子供の様子を語る母親の姿を見ることができました。何よりも出会った子供達が皆可愛く、私のマイナスイメージは消えてしまいました。在宅に移行したばかりの時や、状態が安定しない時等大変な時期も多々存在するとは思いますが、優しい空間を共有するための援助ができる小児訪問看護はとても魅力的だと感じました。今回の研修で、私の小児訪問看護の印象は大きく変わりました。実際の訪問経験は全くないのでまだ不安で、苦手だと感じています。しかし今は私も小児訪問看護を経験してみたいと思います。このような思いを抱かせていただいた研修の担当様、訪問させていただいたご家庭の皆様感謝いたします。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。